

あかやま



第 **322** 号
学校日より383号

アフターコロナに生きる高校生

PTA会長 木村 直樹

令和5年度の松江北高PTA会長を仰せつかっております木村直樹と申します。また島根県高等学校PTA連合会会長も併せて受けさせていただいています。よろしくお願いいたします。

令和5年5月からはコロナウイルスの関りの取り扱いが変わったということで、感染に対する注意は必要ではありますが、コロナウイルス前の生活をどんどん取り戻しており、学校を含めた社会生活も窮屈さを感じなくなってきたのではないかと思います。

そんな中、令和5年8月24日・25日には宮城県仙台市で第72回全国高等学校PTA連合大会が開催されました。島根県内の各高等学校から出席者に集まっていたが、2日間の行動予定を組んでいましたが、24日当日の出雲→仙台便がまさかの落雷トラブルに巻き込まれ、出雲に飛行機が到着することもなく欠航が決まりました。慌てて帯同のJTB添乗員の方に緊急で手配していただきましたが、仙台に昼頃に到着予定だったのが17時を過ぎる到着となってしまう、24日の分科会への参加はかないませんでした。気を取り直して25日の大会に参加しましたが、会場は超満員。立ち見参加の方もたくさんおられる中、全体会の記念講演の講師は仙台育英学園高等学校野球部監督、須江航様でした。まだ40歳という指導者として若いといっている年齢だと思えるのですが、素晴らしい講演を聞くことが出来ました。現代の若者に合わせての指導方針と、過去の自分自身の経験をうまくミックスさせて、選手本人の理解を促す指導をしながら、選手が技術向上を目指していくには、究極として努力・根性が必要といったお話が聴けました。私個人としても大変勉強になりました。そして、最後のトドメとして、出雲への帰り便がまたも雷による欠航。急遽伊丹空港近くのホテルへ宿泊となりましたが、翌日の朝の便で無事帰ることが出来、滅多に経験できないような思い出深い旅となってしまいました。

さて、現在の社会は非常に多様化しており、人との付き合い方もどんどん変わっています。また、悲しいことに海外では戦争も起きています。日本が平和であることに感謝しなければなりませんし、いつどんな事がおきるかわからない時代とも言えます。今後社会へ巣立っていく若者が日本だけでなく多様な国際社会に向かっていくことは色々な困難が待っているかとは思いますが、それを乗り越えていける教育や心構えを授けていくのが高校生活の一環であると思います。また、今やっていることの重要性に後になって気づくこともたくさんあると思います。現代社会の効率を求める考え方も正しいとは思いますが、回り道をするを無駄に思う必要はないのではと個人では思う次第です。様々な考え方をたくさんの人から吸収し、しっかりとした自我を形成できる人として成長してもらえることが、「親の一つの望み」でありますし、高校生活がそれに寄与したということを感じられればと思います。

最後になりましたが、今年度はPTA研修委員会の活動として、バザー・親睦会・研修会と多くの企画を計画していただいたところ、たくさんの保護者の皆様にも参加していただき、誠にありがとうございました。また、広報委員会、生活委員会の皆様にも様々な方面で活動していただいております。今後とも本校PTAの活動にご理解ご協力いただきますようお願いいたします。それでは保護者の皆様のご健康とすべての子供たちの様々な場面での活躍を願って今回の文を終わらせていただきます。



PTA広報委員の目線で綴る近畿研修同行記

昨年からスタートした北高普通科2年生の近畿研修。2年目の今年は、PTA広報委員の野津がレポートします。

【勢いのあるベンチャー企業で働く若手社員の志とエネルギー(企業訪問)】

初日の10月4日(水)は、バスで大阪到着後、普通科212名が5~8人ずつ39班に分かれ、ダイキンや証券取引所など14社の大阪の企業訪問を実施。私は、シェアオフィス業のWeWork Japan(なんば)にご一緒させていただきました。



WeWorkさんはシェアオフィス提供を事業としており、オフィスはなんば駅から徒歩数分の高層ビル27階。おしゃれなオフィススペースと大阪が一望できる眺望は当然島根にはなく、高校生にとってまず衝撃だった様子。

WeWorkの従業員さんはもちろん、入居企業さんからも数人が参加してくれ、総勢10名以上が北高生に何かを伝えたいと関わってくれました。大阪人らしく、たこ焼きネタを仕込んでリハまでしてくれていたようです。

一方で、参加した高校生たちはWeWorkがどんな企業か知らなかったそうなので、事前にどんな会社で何を聞いてみたいかを用意しておく、もっと主体的に深い学びが得られたのではないかという気がしました。

【やはりチョー気になる、2~3年後の自分の姿(卒業生講話)】

夜は10班に分かれて、北高出身で関西の大学で学ぶ大学生を囲み、高校時代の進路選択や大学生活について話を聞きました。

生徒たちが直面する進路選択や数年後の自分につながる話だけに、企業訪問の際より、さらに興味深く高校時代の過ごし方や進路選択についていろいろ質問する姿勢が印象的でした。

大学生の先輩たちの中には独自のプレゼン資料を作って説明してくれる熱い先輩もいました。



【困難にも一歩踏み出す勇気(チームビルディング)】

2日目の5日(木)は体験研修。ものづくり、歴史、農業など6つのコースに分かれて参加します。私は午前中はひこねスカイアドベンチャーのチームビルディングコースに参加。



現地では8mの高さに作られたアスレチックを命綱を付けてクリアしていきます。グラグラする綱をガイドロープを頼りに渡ったり、最後は50mのグラインダーがあったりと、お互いコツを教えつつ、奇声をあげながら楽しんでいました。先頭を切り開いて独走する生徒の姿も印象的でした。

このアクティビティの目標は、一歩踏み出す勇気。とても高くて難しいようなアクティビティも一歩踏み出してみると何とかクリアできる体験になりました。

3日目の6日(金)は、京都大学や近畿大学など、自分の興味に合わせて6大学から1つを選んで大学見学。

今回の研修では、各自、島根にはない環境で多くの刺激を受けていろいろ考えることも多かったのではと感じました。個人的にはもう少し高校生の生の声を聞いてレポートに反映できればよかったと思います。

現場からは以上です。

※ その他、以下のトピックや秘蔵写真を盛り込んだ完全版レポートは右にあるQRコードから確認できます。

【日本の歴史を振り返る(コリアンタウン)】

【クルーズ船から大阪を(サンタマリア号クルーズ)】



【理数科2年生関東地区研修】 令和5年10月4日(水)～6日(金)

10月4～6日の3日間、理数科2年生は関東地区研修を行いました。新型コロナやインフルエンザなどの感染症の流行を心配しましたが、昨年を引き続き、今年も17Rの生徒全員で研修を行うことができました。

1日目は、国立科学博物館と上野周辺の見学を行い、夜は高エネルギー研究機構の若手研究者との座談会を行いました。国立科学博物館(科博)は、自然史・科学技術史に関する国立の唯一の総合科学博物館です。最近では、「おうちで体験!かはくVR」の公開もあり、科博を自宅でも楽しめるようになってきていますが、実物の迫力はやはり



り別格でした。その魅力的な展示物は、自然科学や科学技術に興味のある生徒たちの心をとりえ、昨年より30分増の3時間の見学時間でも「時間が足りなかった」「もっと見学したかった」との声が多く寄せられました。また、科博のほかに、近くの上野動物園などの施設を見学するグループもありました。夜は、素粒子や宇宙の秘密の解明につながると期待されている未来の加速器ILC(国際リニアコライダー)の若手研究者のおふたりに研究の内容や研究者になるまでの経緯など、熱心にお話しいただき、研究にける熱い思いや覚悟などに直接触れられる貴重な時間を過ごすことができました。生徒たちも次々と積極的に質問し、終了予定時刻を過ぎても質疑応答が盛り上がり、なかなか終了できないほどでした。



2日目は、筑波研究学園都市である茨城県つくば市にバスで移動し、高エネルギー加速器研究機構(KEK)、物質・材料研究機構(NIMS)、宇宙航空研究開発機構(JAXA)と3つの研究機関を見学しました。それぞれ国内における各研究分野の聖地ともいえる施設であり、教科書にも載っているような施設に入ったり、そこを舞台に最先端の研究をしておられる研究者の方から直接お話を伺ったりすることができました。



3日目は、東京大学の研究室訪問と、東京スカイツリーとその周辺の見学をしました。東京大学では、地震研究所、工学部(電子顕微鏡材料学研究室)、医学部、定量生命科学研究所、薬学部と5つの班に分かれて研究室を見学・訪問させていただきました。それぞれの研究室では、模擬講義を受けたり、世界でここにしかない研究機器や設備、施設を見学したりしました。どの研究室でも親切に対応いただき、生徒たちの満足度は非常に高かったです。中でも、工学部、医学部では松江出身の先生からも直接お話を伺うことができました。お陰様で、それは得難い経験となり、大学進学や研究者という仕事をより身近な目標として感じられるようになったようです。



また、今年の東京スカイツリー見学は、好天に恵まれ、遠くまで見渡すことができ薄っすらと富士山も確認することができました。

本物の持つ圧倒的な迫力や熱気を帯びた空気感など、直接触れてこそ伝わるものを一人一人が感じ取ることができ、大学進学や将来を考える時期の生徒たちに、今後の人生にいい影響を与えてくれるだろうと思われる充実した研修となりました。

【1年生 隠岐島前研修】 令和5年10月5日(木)～6日(金)

松江北高校では、教室の中では体験できない学びの一つとして、令和2年度から1年生を対象に隠岐島前研修を実施しています。4回目となる今年度は、学年全体から希望者を募り、10月5日(木)、6日(金)の1泊2日の日程で23名が参加しました。

初日は「フェリーくにか」で七瀬港を出発し、現地の港に到着後、6箇所の事業所に分かれて班別研修を行いました。隠岐牛の飼育や海藻の研究、隠岐ジオパークなどの豊かな地域資源を活かす事業に取り組む方、離島で医療に携わる方、歴史文化の継承に力を注いでいる方から特色ある活動についてお話を伺うとともに、それぞれの班で体験活動等にも取り組みました。

初日の夜は、隠岐国学習センターで開催の「夢ゼミ」に参加し、学習センターに通う隠岐島前高校の生徒とともに、「伝える」というテーマでワークショップに取り組みました。同世代の高校生との交流は大いに盛り上がり、多様な価値観に触れることで、自分の視野を広げる良い機会となりました。

2日目の午前中は、海士町で暮らす大人の方との座談会を実施しました。講師となった方々に、「質問」を投げかけながら、積極的に対話を行うことができ、自己の生き方あり方、未来について考える素晴らしい機会となりました。

午後からは、島前での2日間について「振り返り」を行いました。3～4人で一組の班ごとに、自分が今回経験した研修の内容や状況について同じ班のメンバーに説明、その後、互いにインタビューをする形式で、研修で経験したことについて振り返り、さらに今後の高校生活の目標について班内で共有しました。

2日間という短い時間でしたが、参加した生徒は多くの方々と出会い、自分自身の普段の生活や学習への取り組みを振り返りながら、さらに新たな視点を発見することができた貴重な研修となりました。

全面的にサポートしていただき研修に関わっていただいた事業所、講師の皆様には感謝いたします。ありがとうございました。

